

小丸川水系河川整備計画【原案】に対する住民からの意見と回答案の対比表

No	意見者			分野	項目	主な意見	意見	回答案 (赤字: 追記・修正箇所 青字: 第3回懇談会における関連意見)	【案】への反映方針		
	住民説明会	意見箱	葉書						【原案】本文に既に反映済み	新たに追記・修正	
6			○	治水 (ハード対策)	洪水対策	河道掘削等により災害の少ない川づくりをしていただきたい	災害の少ない川づくりをしていただきたいと思ひます。	当事務所としても皆様の生命・財産を守る治水安全度向上については、最優先で取り組むべき事項と考えています。本整備計画の目標としている流量を安全に流すことが出来るようない区間におきましては、過去の水害の発生状況、流域の重要度やこれまでの整備状況などを総合的に考え、上下流の治水安全度バランスを考慮しつつ、段階的に着実に実施して参ります。	P52、P58、P61		
7			○				川床の掘削をお願いします。期待致します。				
8			○				河道掘削については早急をお願いします。				
9			○				下流が砂土をとられ幅広くなり水の流れも良くなりました。上流に行けば、まだ整備が……				
10			○				整備が遅れている箇所、一次整備は完了しているが、計画等の変更により基準をクリアしていない箇所の整備を早急をお願いしたい。災害に怯える事のない木城町にしてほしい。				
11			○				河川幅は広いですが、土砂の堆積、竹木等がおい茂り水量が多くなると水位が上がる。川床の掘削等全般の整備が必要と思う。				
12			○		河道掘削: 水位を低下させるとありますが ・底部が上げ底状態は何かならないのか。 ・河川敷状態がある(泥の溜り過ぎ)(土砂)						
25			○	治水 (ソフト対策)	水防情報提供等	ハード面だけでは、限界があると思われるので、ソフト面の充実を図っていただきたい。	洪水等による災害対策においてハード面では、限界があると思われるので、ソフト面の充実を図っていただきたい。(住民の危機管理の危機を高めるなど)	ご指摘のとおり、計画規模を上回る洪水等が発生した場合においても、被害を最小限に止めるためには、地域住民と関係機関とが相互に連携・協力し、危機管理体制を確立することが重要と考えております。地域住民の避難が適切かつ迅速にできるように災害情報の提供体制強化や、 自助・共助・公助のバランスの取れた個人・地域の防災力向上を進めてまいります。 なお、皆様の意見とともに、水防活動等の充実や連携強化を図るための水防法等改正の閣議決定がなされたことを踏まえ、「4.3.1(4)2 水防活動への支援」に支援体制を確保・充	P66~71	P67	
26			○				積極的な取り組みで感謝している。ハード面は限界があると思うので、ソフト面を充実して欲しい。				
27			○				ハード対策には、予算等の限界があるだろうが、住民の気持ちとしては、非常に安心する。これからは、ソフト面の対策を重要視して、自からの身は自らで守るとの考えのもとに、情報の収集の方法に自分自身力を入れて考えて行きたい。				
42			○	環境	水質	濁水の長期化現象対策を早急にしてください。	濁水の長期化現象対策を早急にしてください。魚は全滅です。	当事務所としまして、上流から海までの総合的な土砂管理の観点から、関係機関と連携しつつ取り組まなければならない重要な課題の一つとして認識しております。このため、「水質保全」に関する項だけでなく、「総合的な土砂管理」の項に課題として織り込み、平成19年10月に設置した「宮崎県中部流砂系検討委員会」の中で対策等を検討することとしておりますが、「(2)河川の水質」の項で具体的な実施内容について追記することとします。	P72、P75		
55			○	環境	自然環境	環境整備は上流部の森林整備等にも積極的に取り組まなければ改善しない。	環境整備は上流部の森林整備等のみならず、水質の観点や総合的な土砂管理の観点から、流域全体の関係する機関と連携・役割分担して、調整・研究、対策の検討を行っていきたくと考えています。	ご指摘の上流部の森林整備等のみならず、水質の観点や総合的な土砂管理の観点から、流域全体の関係する機関と連携・役割分担して、調整・研究、対策の検討を行っていきたくと考えています。	P72、P75		
56			○			環境面においては、直轄だけでなく、上流との連携を図ることによって充実して欲しい	「連携」について、もう少し具体的な例を追記して欲しい。				
57			○	川づくりの進め方		川とうまくつきあうための子供たちへの教育が必要	川の恵を受けながら私たちは生活していますが、同時に危なさも同居していることを改めて感じました。次世代へつなぐために、「近づくことあぶない」と言うことで川であそぶ子供たちは少ないと思ひます。「うまくつきあえばすばらしいもの」として学ばせていくといいのではないのでしょうか。	当事務所としまして御指摘のとおり、川の危なさ(防災意識)を含めて子供たちに教えることは重要事項と考えています。加えて、近年の災害を受け「防災」が学校教育のプログラムにも組み込まれることとなっている状況を踏まえ、「5.3 地域の将来を担う人材の育成等」に防災教育を積極的に支援する旨追記します。	P78	P78	